

航空連合NEWS

発行：航空連合／発行人：長谷川 樹 〒144-0041 東京都大田区羽田空港1-6-5 第5綜合ビル5階 TEL (03) 5708-7161 FAX (03) 5708-7163

航空連合 第25-26期 運動方針

ローリング(案)

- 航空連合は昨年の第25回定期大会において、第25期-第26期の2か年運動方針のローリングを決定し、方針に掲げた内容の実現に向け、集中的に取り組んできました。
- 2か年方針の中間年として成果と課題を振り返るとともに、コロナ禍後の更なる成長に向け、航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業」の実現に取り組むための運動方針ローリング(案)を策定します。
- **1. 産業の基盤である安全の堅持と人材の確保・拡大** 安全と産業の持続性の前提となる人材確保を最重要課題と位置付け、産業で働く魅力を働く仲間自身が再認識する取り組みを推進するとともに、将来の産業を支える未来の仲間に関心を持ってもらえるよう、産業で働く魅力の発信をいっそう強化し、活動を発展させます。
- **2. 「圧倒的な生産性向上」と「継続的な人への投資」による好循環の実現** 産業全体での「圧倒的な生産性向上」の実現に向けて、各職場、産業全体でのイノベーションの推進、連携・協業などにより、これまでにない産業レベルでの生産性向上の実現をめざします。また、生産性向上の実現に不可欠な「人への投資」を継続的におこなうことで、やりがい・働きがいのある魅力にあふれた職場を産業全体で実現します。
- **3. 仲間の輪の拡大と運動の変革への挑戦** 航空関連産業で働く仲間が結集し、産業別組合、労働組合として運動を変革することができるよう、多様な仲間が活躍できる組織をつくとともに、環境課題を中心に社会貢献活動に積極的に取り組みます。
- 第26回定期大会は10月2日に開催し、代議員全体での承認、可決をめざします。

第25期-第26期運動方針(2023年~2025年)

第27期以降の運動方針~

航空関連産業のあるべき姿：航空連合ビジョン

いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを感じ、誇りをもって働ける産業

運動方針の3つの柱

- 産業の基盤である安全の堅持と人材の確保・拡大
- 「圧倒的な生産性向上」と「継続的な人への投資」による好循環の実現
- 仲間の輪の拡大と運動の変革への挑戦

「圧倒的な生産性向上」とは

- 単なるコスト削減や手足を速く動かすことではない
- 生産性運動三原則に基づき、生み出された成果は労働者を含む関係者に公正に配分される
- 生産性向上のための先行した「人への投資」も必要

- 2023、2024春闘では大幅な賃上げ
- 続く人材不足
- 財務体質は大きく傷ついた状況

・コロナ禍からの回復

攻

- ・航空関連産業の発展
- ・組合員のゆとりある豊かな生活の実現

中期労働政策方針
(2022-2025)産業政策提言
(2024-2025)

組織基盤の強化

労働政策の実現による 「圧倒的な生産性向上」の実現

- 「人への投資」による次の生産性向上を生み出す「活力の好循環」の実現
- 「生産性運動三原則」に基づく成果の公正な配分
- やりがい、働きがいを感じる、魅力ある職場、産業の実現

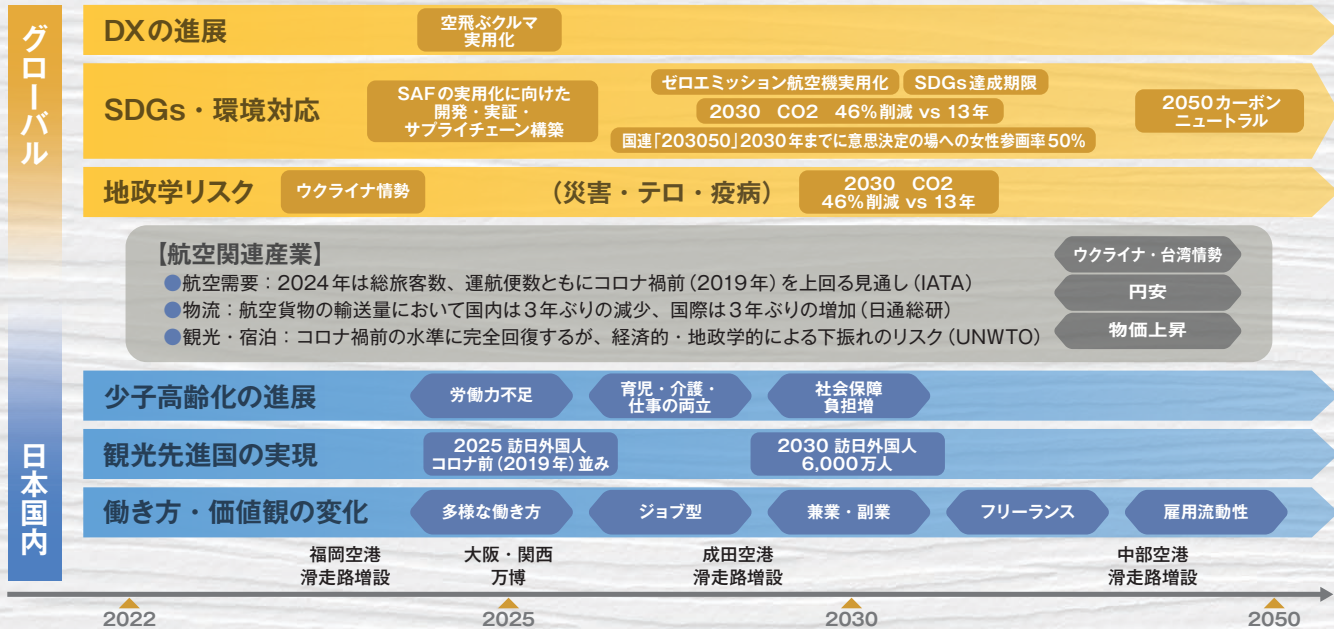
組織基盤の強化による 「圧倒的な生産性向上」の実現

- 組織拡大や地方組織の基盤強化による、産業全体での運動の展開、政策実現力の強化
- ジェンダー平等推進をはじめとする多様な人材が活躍できる組織の構築

産業政策の実現による産業レベルの 「圧倒的な生産性向上」の実現

- DX活用、イノベーションによる省力化・自動化
- 行政に対する規制緩和の要請と実現
- 健全な競争を前提に事業者間のさらなる連携
- 空港・施設の改善による働きやすい環境の実現

I 第26期を取り巻く環境



II 第25期の主な成果と課題

- 1月2日の羽田空港航空機衝突事故を受け、加盟組合への会長メッセージの発信、事務局長談話の公表に加えて、職場の視点も踏まえて関連政策を点検し、実現に向けて関係各所への要請を実施しました。
- 第211回国会で成立した「撮影罪」に関する法施行後の職場状況を点検するため、アンケートを実施し、実効性や運用における課題を改めて整理しました。アンケート結果をもとに記者会見を実施し、盗撮・無断撮影されたとする回答割合が、法施行前の2022年のアンケート実施時に比べ低下したことや、利用客の撮影行為に対して、より能動的な対応ができるようになったとする回答割合が増加したことなど、職場では一定程度、法施行による効果が共有されていることを踏まえつつ、悪質な無断撮影行為については、啓発活動も含め、さらなる対策強化に向けて取り組んでいくことを説明しました。
- 国の「航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会」において職場の現状を踏まえ、今後取り組むべき課題に関する航空連合の考え方を発信しました。6月に公表された「中間とりまとめ」には航空連合の意見・要望が反映され、今後は事業者も含めて、実効性を高めるための具体的な検証・検討がおこなわれることとなっており、今後も関係加盟組合と連携し、引き続き対応していきます。



環境ボランティア活動(航空連合の森)

- 環境ボランティアを実施している福岡県八女市において航空連合福岡と本部で連携の上、航空教室を初めて開催し、保護者を含めて約100名が参加しました。
- 政策実現力の強化に向け、航空連合政策議員フォーラムを定期的に開催し、2024年6月には、約10年ぶりとなる空港現場の視察をおこない、安全の取り組みや人材不足の現状をフォーラム内で確認しました。
- 空港グランドハンドリングにおける産業労使関係の構築・強化と、処遇改善などを含めた魅力ある業界づくりに向けた認識合わせを目的とし、一般社団法人空港グランドハンドリング協会と、初めてとなる産業労使懇談会を開催しました。
- 2024春闘に向けて各職場の状況を十分に共有し、航空連合全体の機運を高めるべく、オンラインで春闘討論集会を初めて開催し、約70名が参加しました。
- 労働組合の社会的責務を果たし、働く仲間がやりがいと誇りを持って働き続けることができるよう、「人への投資」による「圧倒的な生産性向上」に取り組み、働き方と賃金を中心に昨期の「産業の転換点」を確実なものとすることをめざし、各労組が取り組んだ結果、過去最高の賃上げを実現し、大きな成果をあげることができました。
- 継続的な賃金改善に加えて、働き方・生産体制の見直しにいっそう注力して取り組む方針を掲げました。そのなかでも人材不足を背景に繁忙感が高まり、十分に休息を取ることが難しい職場も多いことから、シフト勤務が多いという産業の特性をふまえ、勤務間インターバル協定(11時間)の締結に向けて全体で取り組みました。
- 組織基盤を強化すべく航空連合組織化方針を策定しました。今後、方針に基づいて具体的な活動につなげるべく、加盟組合や地方組織と議論を深めていきます。
- 仲間の輪の拡大・組織化に継続的に取り組み、本邦LCCの労組として航空連合において初めてとなるジェットスター・ジャパン労組の加盟を承認し、第26期から正式加盟することとなりました。

- 女性リーダーがより一層活躍するための研修や交流機会を提供するWINC(Women's Interactive Networking Community)を今期も年間3回開催しました。参加者自身のやりたい姿や課題を達成していくためのグループワークとディスカッションを通じて交流を深めました。また、これまでのWINC受講者との意見交換を初めて実施し、交流を深めました。
- 航空連合独自の環境ボランティア活動「空をつなぐ。笑顔をつなぐ。」プロジェクトで設立した「航空連合の森」(福岡県八女市)において、森を育てていくための下草刈りを実施し、全国の加盟組合から59名が参加しました。今回はSAFの供給側である日本化学エネルギー産業労働組合連合会(JEC連合)の執行部にもボランティアに参加いただき、脱炭素社会の実現に向けた講演を受け

るなど、産業横断的に取り組みました。

- 令和6年能登半島地震を受け、連合被災地救援ボランティアに加盟組合・本部から4クールあわせて7名が参加しました。加えて、連合の緊急カンパの取り組みに賛同し、加盟組合から多くの善意が寄せられました。
- 「連合平和行動 in 広島」に加盟組合から参加者を募り、全国から8名が参加しました。平和ヒロシマ集会への参加、広島平和記念公園の見学・慰霊を通じ、平和の重要性や労働組合が果たすべき役割を学びました。航空関連産業は平和の上に成り立っていることを改めて認識し、今後は核兵器廃絶への取り組みなど、平和活動につなげていきます。

III 第25期-第26期運動方針ローリング(案)

第25期は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることなく、航空連合の活動を進めることができました。具体的にはオンラインと対面を使い分け、更なる活動の充実と職場の問題解決に精力的に取り組んできました。

職場では、引き続き人材不足が続いており、喫緊の課題となっています。国も職種に応じた将来の人材確保に向けた検討会を立ち上げるなど、本腰を入れた施策が打ち出されており、航空連合として職場の意見を反映していくことが重要です。2024春闘においては、航空連合として産業の転換点を確実なものとするべく、「10,000円以上」のベースアップ方針を掲げ、一時金・賞与を含めて、大きな成果を得ることができましたが、今春闘の到達点をふまえ、コロナ禍で広がった他産業との賃金差の是正や、長期化している実質賃金の低下への対応など、継続的な賃金改善をはじめとする労働条件の向上にむけて引き続き取り組む必要があります。また、働き方の改善については、勤務間インターバル協定(11時間)の締結に向けて産業全体で継続的に取り組みます。航空関連産業はすそ野が広く、安全運航とお客様への安心なサービス・商品の提供は多くの仲間によって支えられています。産業に集うすべての仲間が安心していきいきと働ける環境をつくっていくことが、航空労働界を代表する産業別組合である航空連合には求められています。

加えて、人材不足の要因として、産業で働く魅力が十分に伝わっておらず、ネガティブなイメージが染みついていることも考えられます。コロナ禍により航空関連産業のイベントリスクへの脆弱性や労働条件の悪化が広く伝わったことにより、航空に関する専門学校においては、大幅な入学希望者数の減少や定員割れに陥っています。一方で、観光立国をめざす我が国においては、私たちの産業は必要不可欠です。産業で働く仲間を増やしていくためには、私たち自身がこの

産業で働く魅力を再認識・再構築し、自ら発信していく必要があります。私たちのやりたい姿である航空連合ビジョン「いつの時代も社会から必要とされ、働く仲間がやりがいを
感じ、誇りをもって働ける産業」の実現に向けて運動を強化していくことが、今まさに求められています。

このような状況をふまえ、第25期-第26期2か年方針を堅持し、第25期の成果と課題をふまえ、2か年の仕上げに取り組み、今後の運動のさらなる充実につなげていく必要があります。人材が不足しているなか、急激な需要回復局面において不安全事故が発生している状況をふまえ、産業の安全を守る人材を確保・育成・定着させる必要があることから、第一に「1. 産業の基盤である安全の堅持と人材の確保・拡大」に取り組みます。安全と産業の持続性の前提となる人材確保を最重要課題と位置付け、産業で働く魅力を働く仲間自身が再認識する取り組みを推進するとともに、将来の産業を支える未来の仲間に関心を持ってもらえるよう、産業で働く魅力の発信をいっそう強化し、活動を発展させます。次に「2. 「圧倒的な生産性向上」と「継続的な人への投資」による好循環の実現」に取り組みます。産業全体での「圧倒的な生産性向上」の実現に向けて、各職場、産業全体でのイノベーションの推進、連携・協業などにより、これまでにない産業レベルでの生産性向上の実現をめざします。また、生産性向上の実現に不可欠な「人への投資」を継続的におこなうことで、やりがい・働きがいのある魅力にあふれた職場を産業全体で実現します。そして「3. 仲間の輪の拡大と運動の変革への挑戦」に取り組みます。航空関連産業で働く仲間が結集し、産業別組合、労働組合として運動を変革することができるよう、多様な仲間が活躍できる組織をつくることともに、環境課題を中心に社会貢献活動に積極的に取り組みます。

産業の基盤である安全の堅持と人材の確保・拡大

- 安全運航の堅持、安全・安心なサービスの提供は、産業存続と発展の基盤であり、各職場の要員が不足している状況だからこそ、航空安全政策の実現と安全意識の醸成にいっそう主体的に取り組めます。
- 安全と産業の持続性の前提となる人材確保を最重要課題と位置付け、産業で働く魅力を働く仲間自身が再認識する取り組みを推進するとともに、将来の産業を支える未来の仲間に関心を持ってもらえるよう、産業で働く魅力の発信をいっそう強化し、活動を発展させます。

2 「圧倒的な生産性向上」と「継続的な人への投資」による好循環の実現

- 交通・物流・観光を通じて日本経済の成長を支え、いっそう社会に貢献できるよう、産業全体での「圧倒的な生産性向上」の実現に向けて取り組みます。各職場では労使の不断の努力によって生産性向上施策を議論、実行するとともに、産業全体では規制の見直しやイノベーションの推進、企業間の連携・協業に加えて、航空連合地方組織と各空港や地方自治体などとの関係強化によって、これまでにない産業レベルでの生産性向上の実現をめざします。
- 生産性向上の実現に不可欠な「人への投資」を継続的におこない、「産業の転換点」を確実なものとする中で、「航空連合 中期労働政策方針(2022-2025)」で掲げた目標の達成に向けて産業一丸となって取り組みます。賃金改善に加えて、休み方・働き方の見直しを進め、あらゆる観点から「人への投資」を促し、やりがい・働きがいのある、魅力にあふれた職場を産業全体で実現します。
- 航空関連産業はすそ野が広く、多くの仲間が産業を支えていることをふまえ、労組の有無や資本関係にかかわらず、産業全体に「人への投資」を波及させるべく、適正な取引の推進や産業全体を意識した労働条件の向上に取り組みます。加えて、様々な職場で起きている問題の把握と解決に取り組み、多くの仲間が安心して働くことができる職場をめざします。

3 仲間の輪の拡大と運動の変革への挑戦

- 産業全体で健全な労使関係を構築し、これまでにないレベルで仲間の輪を拡大することで、航空連合の組織基盤を強化し、産業全体での労働条件の底上げ、産業での適正取引の推進に取り組んでいきます。
- 多様性を尊重し、ジェンダー平等をはじめとする多様な仲間が活躍できる組織運営に努めます。「航空連合 ジェンダー平等推進計画(2021.10 ~ 2025.9)」の目標を確実に達成するために、ジェンダー平等推進に関する活動に積極的に取り組みます。
- 航空連合の活動のさらなる充実をめざし、航空連合地方組織の運営効率化や本部執行部との連携強化を図るとともに、組織運営のDX化、電子化などを進め、情報的確に共有できる基盤を構築します。
- 組織の基盤となる人材について、航空連合の強みをいかして産業に集う仲間の人材育成に積極的に取り組みます。また、産業内のチームワークを強化することも極めて重要であり、人材交流機会をさらに充実していきます。
- 産業別組合として積極的に社会課題に対応していきます。化石燃料を使う産業として、脱炭素社会の着実に推進していくべく、独自のボランティア活動を継続するとともに、平和の上に成り立つ産業として、連合の平和行動などの取り組みも進めていきます。

第26回

定期大会を開催!

- コロナ禍後の更なる成長に向けた第25期-第26期運動方針ローリング(案)や産業政策に関する提案をおこないます。
- 大会では活発な議論をおこない、第26期を円滑にスタートできるように努めます。

大会概要

2024年10月2日(水) 10:30~

於: TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 HEART

議事(予定)

- ① 新規加盟組合の確認・報告
- ② 第25期活動報告及び第25期-第26期運動方針ローリング(案)
- ③ 第25期決算報告・剰余金処分(案)、第26期予算(案)
- ④ 2024-2025 産業政策提言(案)
- ⑤ 第26期役員の補充
- ⑥ その他

航空連合

は、航空関連産業で働く仲間・労働組合が大同団結し、産業の魅力の向上や基盤の強化に向けて1999年10月に結成された、航空労働界を代表する最大の産業別労働組合です。57の企業別組合の44,306人(うち客室乗務員約15,000人)で構成され、ナショナルセンター「連合」に加盟しています。



フォローをお願いします!

Facebook



Follow me!

Instagram



会長 X 始めました!

X



ニュース・航空連合へのご意見は E-mail でお受けしています。

アドレス avinet00@jfaiu.gr.jp

ホームページ <https://www.jfaiu.gr.jp>

アルコール関連相談窓口をご活用ください。

航空関連産業での飲酒に係る不適切事象の根絶に向けて、定期航空協会が無料の相談窓口を設けております。航空会社に所属する方のみならず、航空連合加盟組織の皆様も利用可能です。相談内容は決して、勤め先企業にも定期航空協会にも伝わりませんので、お気軽にご相談ください。

